

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	東京海洋大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トウキョウカイヨウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	海洋環境実務実習
	学部・研究科等名	海洋科学部海洋環境学科
	担当教職員名・役職	高橋美穂・准教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	5
	受入企業等数	4
	受入企業等名	株式会社東京久栄、独立行政法人農林水産消費安全技術センター、神奈川県水産技術センター、古野電気株式会社
	インターンシップの分類	6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	海洋環境に関する業務を行っている企業、団体、行政機関等において、10日間程度(場合、希望によっては延長する可能性もある)の実務を体験する。履修希望学生は前期に予定されているガイダンスおよび、事前講習に参加し、そこで割り当てられた派遣先での実務に従事する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	海洋環境学分野および将来の進路に関連した現場で実務体験(10日間程度)を通して、講義・実験・実習・演習で得られた知識などを再確認するとともに、現場における実務内容について理解するための実習科目として実施している。本科目では、実社会に出て、実習を行うことで、実社会に対する適応性を磨くことができる。さらに、職場経験を積み重ねることによって、会社のチームの中で自身と他者とのかかわりの重要性について習得できる。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの趣旨や目的の理解及び実務実習を行うため、1)履歴書をきちんと書けること、2)自分が実習先を選択した理由をきちんと文章にできること、を遂行したうえで、3)自分の要件を相手に適切な方法で的確に伝えること、4)実習先に必要な基礎知識を自分で準備段階として入手できること、5)自分の実習結果を報告書として提出できるようになることなど、プレゼンテーションや報告書の書き方について指導している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習の後には実習ノート、レポートを義務付け、実習の効果を確認している。さらに学生に口頭試問し、実習の達成度をチェックしている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	教員がインターンシップ中に学生と面談を行い、学生がインターンシップ中に作成する日誌も用いながら、事前学習の際に設定したインターンシップ中の目標達成に向けた指導を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習の後には実習ノート、レポートを義務付け、実習の効果を確認している。さらに学生に口頭試問し、実習の達成度をチェックしている。実習後のレポートを通して、自分が実習で受けた職業に対する適性、職を得た時の自分のあり方などの考えをまとめ、就職に活かすよう指導を行っている。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している

要素⑤	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	海洋環境に関する業務を行っている企業、団体、行政機関等において、10日間程度(場合、希望によっては延長する可能性もある)のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	成績評価の際には、派遣先からの評価も含めて評価を行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus.s.kaiyodai.ac.jp/ (海洋環境実務実習)
問い合わせ先	大学等名	東京海洋大学
	担当部署名	教務課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	中島 直也
	電話番号	03-5463-4245
	メールアドレス	k-kyomu1@o.kaiyodai.ac.jp